

第5回 IDPT 議事録

開催日時：平成29年7月8日(土) 午後5時00分～5時50分

場所：高尾台町会会館

出席者：21名

記録者：勝裕

会議次第については別紙「配布資料」参照

◆報告事項1(実施済会議並びに事業)

- 1、第4回(平成29年度第1回)会議議事録確認の件
- 2、高尾台自主防災会第1回実行委員会実施報告
- 3、第1回「向こう三軒両隣防災懇談会」実施報告 議事録あり
- 4、「防災士育成候補推薦お願い」提出報告
- 5、「土砂災害避難訓練」参加協力報告

◆協議事項

1、第2回「向こう三軒両隣」防災懇談会実施要領の件

①参加者について

IDPTメンバーが自らの「向こう三軒両隣」を集める

トップダウンではなく自らが動く、点と点をつなぐ、これこそが高尾台
集まってくれた家庭を地図でわかりやすくポイントをつけてはどうか

「こんないいことやってるんだよ」と口コミでの広がりを期待

万が一の時に助けてくれる人を増やそう

いろいろな話を出来る人を集めよう

意志ある人に参加して頂き、盟約を結ぶ機会としよう

(結論)

第1回で班長の皆さんに防災意識が広がったことを大切にすべきではないか。よって、第2回は
班長さんに自らの向こう三軒両隣(and/or 班内外の親しい人に声かけ)を集めてもらう方向で

②屋外フィールドワークについて

参加人数が多くなれば、IDPTが案内役になることも必要か
役割分担は今後検討

③参加人数について

参加人数が多くなるようならば、開催日程を増やす or 講演と巡検を別日程で検討

④周知方法

まずは班長会議でお知らせをする

次回 第6回 IDPT 会議 8月20日(日)開催予定 (時間が短く足りないので2時間として開催)

以上

生きた自主防災高尾台 (IDPT)

第5回 (平成29年度第2回) 会議 (配布資料)

開催日：平成29年7月8日 (土)

会 議：17時00分～17時50分

懇談会：18時00分～19時45分

会議次第

◆報告事項1 (実施済会議並びに事業)

1. 第4回 (平成29年度第1回) 会議議事録確認の件
2. 高尾台自主防災会第1回実行委員会実施報告
3. 第1回「向こう3軒両隣防災懇談会」実施報告 (議事録添付)
4. 「防災士育成候補推薦お願い」提出報告
5. 「土砂災害避難訓練」参加協力報告

◆審議事項：(なし)

◆協議事項：

1. 第2回「向こう3軒両隣防災懇談会」実施要領の件

◆報告事項2：

6. 次回会議予定

- 第2回「向こう3軒」実行委員会 (案)
8月27日 (土) 17時30分～18時30分
- 第2回「向こう3軒両隣防災懇談会」 (案)
9月 2日 (土) 14時00分～17時00分

◆報告事項1 (実施済会議並びに事業)

1. 第4回 (平成29年度第1回) 会議議事録確認の件
平成29年4月1日 (土) 開催、年3回計画の「向こう3軒両隣」の第1回を班長 (30名) を対象として実施することを決定しました
2. 高尾台自主防災会第1回実行委員会実施報告
平成29年4月15日 (土) 開催、新副会長3人の皆さまに、高尾台町会自主防災会の歴史と活動を知って頂いた
3. 第1回「向こう3軒両隣防災懇談会」実施報告
平成29年6月11日 (日) 開催、45名参加 (班長の欠席2名)、課題として指摘を受けた点の多くは、近所付き合いが希薄であることに起因し、それはそのまま防災意識の低さに直結しているという実体が浮き彫りとなった
4. 「防災士育成候補推薦お願い」提出報告
女性3名、男性2名の候補者推薦お願いを平成29年6月15日、伏見台防災会に提出しました。
5. 「土砂災害避難訓練」参加協力報告
平成29年6月25日 (日) 実施の土砂災害避難訓練に参加協力しました

◆協議事項: 第2回「向こう三軒両隣」防災懇談会実施要領の件
第1回「向こう三軒両隣」防災懇談会を振り返る
開催主旨は？

高尾台町会の防災力強化に向け、まず必要なことは、

↓
コミュニティーの再生・復活

↓
「向こう三軒両隣」防災懇談会を仕掛ける

第1回:
町会会員の皆さまに呼び掛けて頂く役割を担う班長さんに
「向こう三軒両隣防災懇談会」開催の主旨を理解してもらう

↓
高尾台自主防災会の説明・啓蒙ビデオの上映

意見交換Ⅰ「あなたが防災活動をする上で障害は何か？」
意見交換Ⅱ「障害を乗り越える～IDPTがお手伝い出来ることは～」
(班長さんに班の中での防災懇談会をお願いするとして)

「第1回「向こう三軒両隣」防災懇談会」から得られた方向性？

「ご近所で助け合う町会でありたい。課題は多いが「向こう三軒両隣」防災懇談会を継続し、ひとつひとつ克服する。」

●発言者: 一丁目9班 班長

1. 町内の方と会う機会が少ない。こういう機会が多い程、皆さん手を取り合って助け合えるようになると思います。
1. ここで話し合ったことをどういうふうに次の年、またその次の年に伝えてゆくか考えなければならぬ。班長だけが知っているだけでは、駄目だと思います。伝え方をしっかり考えて、ゆくゆくは、各家庭、各個人が、これが大事だと判って頂く「しくみ」を構築してゆければ、町会としての自立性が防災力強化に繋がると思いました。今後も、こういう機会があれば前向きに参加させて頂きたいと思えます。

↓
第1回で指摘された課題とは？

- (1)ご近所付き合いが少ない
- (2)防災意識が希薄

↓
いざという時の初動も、ご近所のこと、備えも、何も分かっていない
だから、考えられることを地道に一步一步実行し、変えてゆくしか無い

1. 新班長さんを対象に「向こう三軒」を毎年6月第2日曜日に開催し、小さな単位でのコミュニティー再生が防災力強化の要であることを理解頂くことを継続する
2. 同時に、家族単位で防災を考える「きっかけ」づくりをアンケート調査の形で提供し、「近所付き合い」の重要性に気づいて頂く一歩を踏み出す

第2回は？

- (1) IDPTメンバーが自らの「向こう三軒両隣」を集める
他人にお願いする前にまずはIDPTが、自ら自分の向こう三軒両隣に声掛けを実施し、コミュニティ再生の経験値を積むことが重要と考えました
- (2) 第1回で防災意識に目覚めた班長さんが必ず存在すると確信し、班長さん全員に、班長さんの「向こう三軒両隣」を集めて頂くべく協力をお願いする
- (3) 防災懇談会は、
みんなで知って、確かめよう「森本・富樫断層帯」(仮題)
金沢大学理工学域 自然システム科学系 地震研究室の平松良浩教授を招き
講演：(仮題)「森本・富樫断層帯に地震がおこったら」(90分)
その後、高尾台町会内を走る断層帯の屋外フィールド・ワーク(90分)
という内容で実施、時間があれば懇談したい
- (4) 町会会館のキャパ及びフィールドワーク安全確保から、定員48名とする
- (5) 講演並びにフィールドワークはビデオ及び音声にて記録し、参加出来なかった皆さまにDVDで提供する。同時に、IDPTメンバーの懇談会用教材として活用出来るようにする(講演会要望の声が町会内から出ることを期待)

◆「第2回向こう三軒両隣」防災懇談会」実施要領(案)：

(仮題) みんなで知って、確かめよう「森本・富樫断層帯」

目的：コミュニティ再生の基本単位が「向こう三軒両隣」であることをIDPTメンバー自らが知ることで、伝え方、集め方を検証することを目的とする。

加えて、大学教授を招聘しての講演会並びにフィールドワークを記録しDVD化して残し、防災意識向上のための教材として活用し、向こう三軒両隣の輪を広げることにも資するものとする

実施日：平成29年9月 2日(土)14時00分～17時00分(講師都合)

場 所：高尾台町会会館及び高尾台町会内屋外フィールド

内 容：(人数 Max48名)※実施決定後要打ち合わせ

講演 「森本・富樫断層帯に地震がおこったら」(90分)

講師 金沢大学地震学研究室 平松良浩 教授

フィールド・ワーク：高尾台町会内を歩いて断層帯を知ろう(90分)

◆「第3回向こう三軒両隣」防災懇談会」に向けて：

全戸対象(仮題)「家族で防災の話をしてしよう」(アンケート調査)

目的：家族単位で防災に関して話あってもらうアンケート調査を実施し「向こう三軒両隣」、近所付き合いが重要であることに意識を向けて頂くことを目的とする。

アンケート内容(案)

1. 家庭内の備えを知ろう
1. いざという時の連絡方法を決めておこう(早朝・夜中・日中等々)
1. 学校(小・中・高・保・幼)のいざという時の対応を確認しよう